

# まちづくりビジョン策定委員会（第3回）会議録

- 日 時：平成26年2月14日（金）午後3時00分～午後5時55分
- 場 所：みなかみ町観光センター 2階 第2会議室
- 出席者：
  - ①まちづくりビジョン策定委員会（10／13名）  
小林 洋、河合 生博、小野 章一、鈴木 和雄、木村 孝弘、持谷 美奈子、  
中島 エリ、渡辺 一彦、金子 崇範、鬼頭 春二
  - ②アドバイザー（1／1名）  
平松 庚三
  - ③事務局（3／3名）  
まちづくり交流課長 宮崎 育雄、商工振興GL 小池 俊弘、主査 大川 志向
- 配布資料
  - 資料1 H24主要施策の成果報告書（「21観光の振興」抜粋）
  - 資料2 観光振興計画施策の進捗状況
  - 資料3 観光の現状と問題点（各委員発言要旨）
  - 資料4 利根商業高等学校就職状況（H15～24）

## ■ 会議内容

---

### 1 開会

### 2 あいさつ

鈴木 平成17年に町村合併してから8年が経過したが、今後のまちづくりをどうするか大事な時期である。このような委員会が発足し、ビジョンを策定できることは希望が持てるし、みなさんのご活躍に期待している。委員に委嘱していただいて光栄であるが、不注意から体調を崩してしまった。病気を克服して職責を果たしていきたい。また、今回は素晴らしいアドバイザーを迎えることができ、素晴らしいビジョンを策定することができると思う。それぞれの立場で存分に意見を出していただいて、所期の目的を達成したい。

一点お話ししたいことがあるが、みなかみ町が水源の町であるということ。東京オリンピックの開催が決定したが、東京を安全な街にするためには上流域を安全な地域にしなければならないと考える。利根川の利水治水がうまくいっているからこそ300万人の生命が守られている。カスリーン台風で大きな被害があり町内に多くのダムがつくられたが、当時の上流域のみなさん（特に藤原地区）の協力があつたからだということを忘れてはならない。また、流域に人間は安全神話によりかかりすぎではないかと危惧する。オリンピックを成功させるためにも利根川上流域の安全を今一度検討する必要がある。災害が起こった場合の危機管理体制、その地域への迂回侵入道路について真剣に考えるべき。国家戦略特区は上流域も含めて流域が安全な地域として世界中から人々を迎え入れられるようにすべきと強く思う。この機会に町の水源地

の安全を確保するための構想についても真剣に考えるべきではないか。

### 3 議事

#### (1) 観光振興計画の進捗状況について

平松 大変大きな疑問があって、前回配布された観光振興計画が大変良くできていて、我々がやろうとしていることとかなりオーバーラップしている。各地域・分野の問題点もよくまとめられており、町にとっては資産である。観光振興計画は手段であるので、その後どのようなアクションがとられているのかを事務局に調べてくれというのが前回の話。この計画がどの程度進捗しているのかわかった範囲で結構ですので報告いただきたい。問題点はかなり具体的に提起されている。

事務局（観光振興計画の進捗状況について、資料1及び資料2により説明する。）

- ・観光振興計画が策定されているが、適切な進捗管理が行われていないこと。
- ・計画で設定された目標値については、総合計画で定めた目標値の進捗管理という位置づけで、行政評価の手法により進捗管理が行われていること。
- ・目標を達成するための個別施策については、既存事業を継続するにとどまっているものが多く、新規で課題解決に取り組んでいるとは言い難い状況であること。

平松 計画では目標を設定しているし、実施時期、主体も設定しているので形としてはできている。今回ビジョンを策定することで、観光振興計画・総合計画・ビジョンと3つになってしまうのではないか。

河合 行政は計画やビジョンの策定はするが、職員もそれで満足してしまうのだろう。外部に向けてアクションを起こすといっても、観光協会や商工会を巻き込んだだけで実行したつもりになっている。町を元気にしようという大きな目標を忘れている。この委員会の中で、町民を動かせるような一歩踏み込んだプランをより具体的に練っていければよいのではないか。

平松 今も我々とは別のグループがある程度のことはやろうとしている。足並みを揃えなくてよいのか？

河合 揃えるところは揃えて、見直しをかけていけばよいのではなか。会社の経営に置き換えると、この計画は数値が見えないただの絵になっている。実績として数値で上がってこなければ、本来の計画とはいえない。

小林 この計画を策定した委員会が引き続き活動していないのであるから、我々がこれを引き継いで検証していけばよいのではないか。

平松 やり方で混乱しているので聞いているが、これを検証してやっていっていいのか。町内でいろんな方が考えてくれるのはいいが、1年かけて冊子を作って終わりになってしまっは寂しい。

金子 観光人材の育成の施策におもてなし講座の開催とあるが、実施すれば終わりであって、評価基準が曖昧である。行政は形が残ればよいという考えが一部あるのではないか。各項目の詰めが甘く、何がゴールかを明確にしてやれば違ってくると思う。

鈴木 長年行政に携わってきたが、計画は策定するが活かされないことが多く、それでは意味がない。夢を実現することについて、夢を描いたら戦略やアクションプランをどうしたらよいかということが平松さんの本に書かれていたが、この計画はそこがなっていない。

平松 計画を進めている人がいるなかで我々だけで検討してしまっているのか。

鈴木 このような委員会を設置したのは、町長がこれからのまちづくりをどうするのか決めてくれということではないか。

鬼頭 計画はいろんな部署で作っているが、観光に関する計画がなかったことからこの計画を策定した。地域の声を多く吸い上げて策定しているので、現状や課題が細かく整理されている。この計画を具体的にどのように進めていくのかというポジションで検討していけばよいのではないか。

平松 これまでの資産（計画）に、この委員会のアイデアを加えて動かしていくという認識でよいのですね。

鈴木 さらに磨いてよいのではないか。磨かなければ意味がない。

鬼頭 はい、よいです。

平松 そういうことであればわかりました。この計画はなかなかよくできているが、これほど広範囲のことをできるわけがない。この中からできることの優先順位をつけて実行する必要がある。

## （２）観光の現状と問題点の優先順位について

平松 みなさんのお手伝いをするのは特別なことではなくて、会社でやってきたことと同じようなこと。これまでも現状の認識と問題の把握の共通化を図ってきた。問題もたくさん出てくると思うが、１年で全てを解決できるわけがないので、できるところを見つけて具体的な成果を上げていく。そのために、まずは①目標を設定する。目標と言ってもいろいろあるが、目標の設定をしたら、②戦略を構築する。③番目に実行案をつくる。④実行して、⑤評価する。この①～⑤の繰り返しで、町がここに存在する限りこの流れは半永久的に終わらない。すべてをKPI（数値目標、経営指標）でやる必要があって、絶対値ではなくてパーセンテージで見ることが大切。また、数値の増減の原因が分からないと戦略の構築ができない。うまくいった時もいかなかったときもその理由を検証する必要がある。

この中で観光、教育、商業、農業などの問題があり、目標の設定も30～40も出てくると思うので、優先順位を決めていく必要がある。そういう共通認識で動かしていくのでよろしいか。

鈴木 この①～⑤の繰り返しが大切である。これまでは③実行までで終わっていた。これではうまくない。この組織はそういうことを決めて町長に答申し、ここで決まったことが町長や議会が承認すれば、決まりという流れなので、堂々とこれからの将来を議

論して決めていって良いのではないか。

①確立していないみなかみ温泉郷のブランド

平松 ブランディングでみなかみ温泉郷と水上温泉があり、マーケットを混乱させている。

持谷 「みなかみ温泉」と入力してもネット検索ではヒットしない。そこが他の温泉地と比較してもすごく不利なところ。広すぎて、多すぎて、大きすぎてまとまらない。

平松 この委員会の役割としては、ブランディングの差別化について提案できればよいということではよろしいか。みなかみ温泉郷だけでなく、「みなかみ18湯」という括りもある。

鈴木 18湯については議論を経て決められたものではないし、必ずしもよいとは思わない。

平松 みなかみというロゴと18を常に併せて、みなかみ町には18湯あるというのは戦略としてありだと思う。また、この問題を議論するにあたって、観光の人間を入れなくてよいのか。

鈴木 ここに観光の人間をいれてもまとまらないのではないか。

渡辺 観光協会が話に入っても話が平行線だと思う。この委員会で検討をすすめることで、町民が味方に付く（動かせる）ような方策を考えていかなければならない。大きな敵を作ってしまったらもったいない。そのためにはある程度の妥協も必要ではないか。踏み込みすぎてマイナスの部分もある。観光協会の中にも担当が分かれているので、全ての話は聞けない。

平松 ブランディングの差別化に対しては賛成か。

鈴木 それは必要だと思う。滞在型とそうでないものなど、温泉の役割の議論はしたことがある。

平松 それぞれの温泉地のプロダクトの差別化の議論も必要であると思うが、まずはみなかみに連れてこないことには何にもならない。目的地をみなかみに決めさせて、その中で湯宿温泉や猿ヶ京温泉を選んでもらえればよい。みなかみ18湯は差別化としてすごくよいと思う。

中島 みなかみ18湯の認識の違いがあるのではないか。みなかみ温泉郷の18湯ではなく、みなかみ町の18湯であればよいのではないか。

小林 みなかみ18湯の著者もみなかみ町の18湯として書いているのではないか。

平松 18湯を言わないとどういうことになるのか。

持谷 みなかみという言葉は一切使わないことになる。

平松 だけど、箱根にも湯本、芦ノ湖、塔ノ沢などがある。まずは消費者が箱根という大きなブランドに行こうと思わないとならない。

鈴木 温泉でくくれないなら、100年前に各温泉地を歩いた若山牧水をいれたらどうか。

平松 どれほどの人が牧水を知っているか。キャラクターとして若山牧水を使うという手段はあると思う。

平松 18湯それぞれのプロダクトを検討するよりも、みなかみのブランドを確立する必要がある。みなかみがあつての〇〇温泉。それぞれの宿に強要する必要はないが。

小池 みなかみ18湯と括るメリットが猿ヶ京温泉にもあるのではないか。今まではみなかみと聞くと猿ヶ京は出てこなかったが、みなかみからいかに猿ヶ京を選んでもらえるか。いかにみなかみ町に来てもらうかを考えていかないとならないのではないか。みなかみ町であるということは変えられないのであるから。

## ②誤解を生じるみなかみの天気予報

平松 この辺（月夜野、新治地区）では雪がなくても、みなかみの天気予報が雪と報道されれば、ホテルや旅館のキャンセルが発生するのではないか。

持谷 それは毎日のこと。お客様の理想は道路には雪がなくて、お風呂で雪が見られること。それほど多くの雪は望んでいない。

平松 でも、気象庁の観測所を動かすことは不可能。町などのライブカメラを活用して、情報を発信すればよいのではないか。

持谷 お客様はここまでは見ないで、天気予報だけを見て判断してしまう。こちらが言っても聞いてくれない。

平松 みなかみからお客様の方に積極的に情報を発信していく必要がある。

鈴木 町の面積は広いので、あそこ（みなかみ町幸知の観測所）をみなかみとされては困る。観測所の場所を変えたり、分けたりすることはできないか。

小林 みなかみは山間部の代表として報道されている。月夜野に設置しても報道する意味がない。気象庁は観光のために報道しているわけではない。

持谷 以前にみなかみの女将の会でNHKや新聞社にお願いした経緯があるが、できないと言われた。

鈴木 町村合併したのに、天気予報だけ合併していない。そこまで考える必要があるのではないか。

持谷 藤原を報道すればよいのではないか。

中島 藤原は別格である。

平松 みなかみ18湯であるから、それぞれにライブカメラを設置して、見せる工夫をすればよいのではないか。

### ③脆弱な町内の情報発信力

平松 他の温泉地と比較してもみなかみは発信力が圧倒的に足りない。役場や観光協会に広報のファンクションがないが、よい商品があるのだから、みなかみとして常に新聞・テレビ局にコンタクトをしている部署や仕組みが必要ではないか。役場内に広報の組織や人材を配置し、観光協会などと連携させることは直ぐにでもできる。

中島 役場の他に、観光協会や水上温泉旅館協同組合などがそれぞれで情報を発信しており、統一されていない。

- みなかみ町、観光協会、水上温泉旅館協同組合（まるごとみなかみ）のページを確認する。

平松 いろいろなところでそれぞれの情報を発信するのはよいと思う。これからの時代、ホームページはスマホ対応がマストで、トラフィック（情報量）がどれくらいあるかが最も重要である。

平松 ここからは、みなさんから抽出された課題を一つずつ確認していく。

### ④谷川岳・一ノ倉沢のマイカー規制の支障

中島 一ノ倉沢には旧道と新道がある。旧道はこれまでどおり車を通してはどうか。かつて、一ノ倉沢を一周できるワンウェイ道路を整備する計画があったので、再検討してはどうか。電気自動車を配置する予定であるならば、早朝に出発する方たちへ貸し出しをしてもよいのではないか。

平松 一方、世界的にみても自然の中から車を規制する大きな流れはあると思う。その間のせめぎ合いをうまくできないか。

中島 かつては砂利道であったが、多くの方に見ていただけるよう簡単に行ける景勝地として、車で行けるように舗装した経緯もある。規制されることで一ノ倉沢に行けなかったという話をたくさん聞く。ファンを減らしてしまうのは町にとってもマイナスなのではないか。これまで行けた人に代替の手段が必要なのではないか。

小林 今年から新たに電気バスを導入するので、様子を見てもよいのではないか。

平松 継続審議とし、どのような計画で電気バスを運行するのかを調べておいていただきたい。

### ⑤スキーをする町内の子どもの減少

平松 今年、スキー人口が下げ止まりしたという話を聞いた。

持谷 去年と今年はスキー客が多くなっている。おそらく町内の人は減っているが、都内の人では増えているのではないか。子供のころにやっていた人たちが戻ってきている。

平松 全体としては減っているのではないか。スキーは冬期の観光資源で一番大きいものであるのに、町からオリンピック選手が輩出されていないのがさみしいと思う。

渡辺 子供たちがスキーをすれば、観光的にも客を呼べる。問題はあると思うが、授業でスキーの時間を増やしてもらいたい。授業時間や安全面などの課題もあってほとんど行われていないのではないか。

平松 現在の町内小中学校のウィンタースポーツの授業での取り組みを教育委員会に確認していただきたい。

渡辺 現実的にオリンピック選手を輩出できるまで、もう一步のところに来ている。全国大会で優勝するような選手もいる。

平松 選手を育成するには、お金の問題もある。

渡辺 オリンピック出場のボーダーラインにいる選手が一番お金がかかる。みなかみ町はスタッフや施設も全国で最もよい環境なのではないか。莫大なお金がかかるわけではないので、ちょっとした意識付けで実現が可能なのではないか。

小林 我々が子供だった時代には、学校の近くにスキー場があった。水上地区も月夜野地区と同じような環境になっている。

平松 オリンピックや国体に出場する選手は資金面でどこがサポートするのか。

渡辺 国体に出場する際には、個人、県体育協会、スポンサーで出している。

平松 町では出していないのか。

大川 今年度から、全国大会に出場する際に個人1万円を補助する制度を創設した。

平松 それでは弁当代であり、桁が足りない。強化費を出すことをビジョンに盛り込んでもよいのではないか。

⑥花を使った観光のプロモーション

平松 町内で道路沿いに花を見かけるが、どこでお金を出しているのか。

小野 苗代くらいは町で出している。

大川 上津の国道沿いは町で出している。

平松 あその大きな看板は景観上よくない。景観に関して規制がかかるものはないのか。

河合 広報看板の規制がかかるようなものは町内にはない。

平松 それはものすごく大切。でも看板がなくなるとボランティアもやらなくなってしま

うのか。中学生の授業としてやらせるのがよいのではないか。

#### ⑦問題点の優先順位

渡辺 問題点がいくつかあるか、予算的にも全てをやることはできないので、優先順位をつける必要がある。

平松 脆弱な2次交通については僕も感じていて、上毛高原駅前でもタクシーがないことが問題。この委員会で結論を出しても強制力があるとは思えないが、タクシーも駅前で待ちぼうけをしてはコストがかかるので、タクシー会社同士が連携し、電話があったら直ぐに迎えに行けるようにプールしておく仕組みがあってもよいのではないか。観光地でタクシーがないのは致命的。

持谷 旅館でもタクシーがつかまらなくて困っている。夜の7時半でもつかまらない状態。

鈴木 要するに駅の利用者が少ない。駅の乗降者数を増やすようにしないと悪循環。

平松 鈴木さんの発言は大変大きな問題。みなかみにいかにお客を増やすのか。いろんな目標を決めてやっていかなければならない。

#### ⑧ハイシーズンとローシーズンの平準化

平松 キャンペーンはローシーズンにやるのが原則で、世界中どこでも同じ。

渡辺 観光協会からイベントへの協力をお願いされるが、ボランティアでは続かない。継続可能なイベントにならないとまらない。

#### ⑨若い労働力の不足

渡辺 利根商卒業生の就職先に関する資料には進学に関するデータが含まれていないが、卒業生の大多数は進学ではないのか。今年は商工会と利根商が連携し、就職説明会を開催することになっている。卒業生で目的もなく専門学校に行く生徒が多い。

平松 観光に関連する学科やカリキュラムを利根商に作るのはいかがでしょうか。

鈴木 利根商の教育委員になったが、生徒が年々減っている。県立になってしまえば、利根実と統合されてしまう可能性があり、組合立として特色ある学校経営ができないか。観光の町であるから観光について真剣に考える必要があるのではないか。

平松 全国にも観光に関する学科を設置している大学・高等学校もあるが、お辞儀の仕方などではなく、観光が世界最大の産業であって、町にとっても主要な産業であることを教えていかなければならない。

鈴木 今年度の志願状況は大幅に定員割れの状態。利根沼田の子どもが急激に減少しており、15年後に高等学校に入学する子どもは、今年度の約半数になってしまう。特色ある学校経営をして、利根商を何とか存続させないと大変なことになる。義務教育だけでなく、高等学校教育にも地方自治体が力を入れていく時代にきているのではないか。



平松 人材の育成と雇用の機会の確保は同時に進めないとならない。ここが観光の人材を育成する場所であればよいのではないか。

持谷 利根商や利根実から卒業生を採用するが、サービス業を全て、基本から教え込まなければならぬ。そういうことが少しでもわかっていると旅館側も受け入れやすい。

渡辺 観光の状況がわかっているならば、起業などにもつながるのではないか。

平松 観光がみなかみの経済を支えているという仕組みが分かっているならば、全体の従業員のレベルアップにつながり、言われたからやるのではなく、考えて動けるようになる。

- 利根商業高等学校の平成24年度卒業生の就職状況を資料により確認。

平松 人材の育成はこの委員会でも大きなテーマだと思う。

#### ⑩高品質な農産物のブランド化

平松 ぐんま名月は人気があるのにあまり作らないのはなぜか。

河合 品種の切り替えに早くても5～6年かかってしまうし、それほど単価が高いわけでもない。ブランドとしては良いので、各農園ではある程度つくっている。

平松 農作物もそうだが、みなかみに来たらこれを食べなければならないという名物が無い。

鈴木 遊休農地がたくさんあるのだから、農地を有効に活用して、果樹振興を図れないものか。

平松 それはこの委員会だけではできない。農家がそれぞれに機械をもっているなど、日本の農業はオペレーションの効率が悪い。ただ、効率を高めるために農地を集約するにしても、農地を貸したがるなど問題もある。例えば、町で農業法人をつくり、集約した土地の所有者が株主として権利を持つという仕組みも考えられる。個人でできる問題ではないので、町や県なり農業委員会が関与して、日本で最初の成功モデルになれば良い。

鈴木 この町は農地保有合理化事業で空いている土地を行政が集めることができる。

平松 具体的には次回以降に話をしたいが、それがあつての名物農産物である。ただ、ぐんま名月をつくってはどうかという提案ではなく、農家（特に若者）が安心して農業を営めるようなインフラを整える必要がある。

- 成功事例として千葉県和郷園の取り組みを紹介
  - ・ 売って作るというビジネスモデル
  - ・ 加工品として出荷することで、B級品を活用したり、年間を通じて出荷したり

#### ⑪観光のベースを担う農林業の深刻な衰退

平松 農については先ほど議論したので、林についてはどうか。

河合 林の方が農より状況が深刻で、山は荒れ獣が多くなり、里の形成ができなくなる。農林業に携わり大きな面積を耕す人のほとんどが高齢者であり、今後急激に減少する。2～30年前までは材木の値段がよかったし、きのこ栽培も原木が主体であったので森林の管理が適切に行われていた。

平松 林業までこの委員会で言及するかは検討の余地があるが、町にとって林業も大変大きな問題。儲けないまでも資源・資産が棄損していくのは避けたい。

平松 この他に挙げておきたいものはあるか。

持谷 6月に富岡製糸場の世界遺産登録の可否が決定するが、町の観光振興に結び付けられないか。新治地区でもかつては蚕が盛んであった。

小野 農家は補助金をもらって蚕を飼っている。経営としてはもう限界が来ている。

平松 観光は外せないと思うが、ビジョンとしてどこまでテーマを絞って検討を行うか。

渡辺 観光と農業は密接に関係するのでセットで考えても良いのではないか。観光の人は地元の食材から買って行く。農業は外せないのではないか。

鈴木 できれば福祉も考えていただきたい。人口がどんどん減っているので、新しい産業をつくって雇用の場を確保したい。このヒントが福祉にあると思う。介護難民がいる状況なので、高齢者福祉を新しい時代の産業として定着させればよいのではないか。

平松 福祉も非常に大切であるがそれ以上に大切なのが若い力を持ってくること。シニアタウンが千葉やアメリカにあるが、10年たてば平均年齢がそのまま上昇してしまう。シニア世代と若い世代をうまくミックスする仕組みが必要。

鈴木 そこに交流があれば、観光にもつながる。理解ある企業があれば、行政とタイアップしてなんとかなるのではないか。また、温泉を絡めることもできる。

### (3) 次回委員会の開催について

○ 次回の委員会について、次のとおり日時と場所が決まる。

日時：2月28日（金） 午後2時30分から

場所：観光センター 2階 第2会議室

## 4 閉会